

御挨拶



同窓会会長
占部 憲一

行楽の季節となり、同窓生の皆様におかれましては、ますますお元気でご活躍のことと推察いたします。

母校、名古屋学院大学は、昨年度に大学院の設立の認可が下り、新たに大学院棟が新設され、大学としての体制もますます充実してまいりました。

同窓会も来年度に30周年を迎えることとなり、同窓生が大勢集まっていただけの会を開催したいと企画を検討しております。

昨年開催したホームカミングデーには、大変大勢の同窓生にご参加いただき、盛大に開催することが出来ました。また、終身会員の説明を会報で行ったところ、新たに130名を超える同窓生に終身会員となっていただきました。

今年も、例年通り大学祭に合わせ、ホームカミングデーを開催いたします。キャンパスまではちよつと遠いと思いますが、大学祭のイベントを楽しみながら、新しくなった大学の姿を見て、旧交を温め合っていただければ幸いに思います。

本年度も、同窓会の活動にご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



理事長
内山 道明

今年の夏も暑い日々が続きましたが、名古屋学院大学卒業生の皆さんは相変わらず各地でご活躍のこと、心からお慶びいたします。

この八月には、学校法人の理事の改選があり、新しい陣容で理事会は出発いたしました。

不肖、私が理事長の重責を負うことになりました。宜しく、お願いいたします。

この三年で大学院の充実、経済学部の改組、編入定員増、地元との連携強化など、難しい諸問題を見事とも完成していかねばなりません。さもなければ、刻々と近づきつつある十八才人口の激減事態に対応できないからです。

皆さんもすでにお気づきのことと存じますが、名古屋学院大学の教学体制は非常に充実し、立派な学者が多くを占めておられます。今後とも、この傾向を強めて参りたいと念願しています。

いうまでもありませんが、大学教育の成果は、卒業された方がどれだけ社会で活躍しておられるかによって測られます。その意味でも、同窓生の皆さんの社会的なご活躍は私どもの心からの願いの一つです。

同窓生の皆さんのご活躍が、同窓生という組織での切磋琢磨によつて高揚するのはいうまでもありません。一層協力を深め、母校である名古屋学院大学の発展にご貢献いただけるよう切望いたします。



学 長
佐藤 自郎

爽やかな季節となりました。同窓生の皆様には益々お元気に各方面においてご活躍の様子、心からお喜び申し上げます。同窓生のご活躍も軌道に乗り、機会あるごとに大学に対しましてご援助をいただきありがとうございます。会長はじめ役員の皆様のご苦勞に對しまして心から御礼申し上げます。

大学は本年四月、大学院・経済経営研究科（経済学専攻・経営政策専攻・外国語学研究所（英語学専攻））を開設することができ、新しい大学院棟において講義が行われております。また来春には中国語学専攻の開設準備が進んでおります。

ご承知のとおり、厳しい社会情勢のもとで、卒業してゆく学生諸君が就職を果たしてゆくためには、以前にも増して本当に社会が求めている人間を育成することが私ども教職員の仕事であると感じ、日々努力しているところであります。単なる表面的な知識、技能の習得のみならず、それを将来予想される様々な局面において生かすことのできる応用力、創造力を備えた人間の育成を旨とする必要性を痛感し、建学の精神に基づき豊かな人格と専門知識を備えた学生を社会に送りだそうと心がけております。

また学生諸君にとつて社会とのつながりの窓口は、何といつてもまず同窓生の皆さんです。大学のため、後輩のため、層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。同窓会の益々のご発展を祈念して、ご挨拶と致します。